小規模NPOに対する間接業務を継続的に支援する事業の立ち上げを構想しています。

事業開始予定　2018年6月

具体的には

1. NPOの規模に合わせ、毎週NPOを訪問し、人事経理総務の間接業務を行う。
2. 訪問するNPOの状況を定期的に支援先に対し報告する。
3. 当初は個人事業として、各NPOと個別労働契約を結び社員として業務を行うが、将来的には認定NPOの派遣事業として広範囲のNPOの支援を目指す。

**『後ろを気にせず突き進め』**

小規模NPOの主宰者が事業に専念できる環境を整備する。

継続的な支援。NPOの運営方法の標準化。

**『社会の公器としてのNPO』**

仲間内だけではない、第三者の存在による牽制効果

助成に対して事業状況を『点』ではなく『継続的に』見える化する

ノウハウの提供でなく、関与するNPOの継続的な実務を担う。

小規模NPOであれば、間接業務に専門の人員を配置することは難しい。

事業に対する専従者もままならないのに、間接人員は更に厳しい状況にある。

事業継続できずに廃業するNPOもあると聞く。そこをカバーする事業。

助成等の手続きも行い、NPOの財政改善にも寄与したい。

社会的背景

社会的な求人難の時代となり、NPO事業において人手不足の問題が顕在化している。

2020東京オリンピックに向け、ボランティアに対する興味が広がり、社会的な活動を行いたいという要望は増えていくと思われる。

個人的背景

学卒以降、事業を支える間接業務に従事し、ラインを支えるスタッフとして

『営業・生産が動きやすい環境を維持して行くこと』が主な任務だった。

スタッフとして必要なのは、単なるスキルだけでなく、ラインと異なる視点で、その事業を捉えること。更に関係法、指導官庁の求めるものを、現場で具体化して行く事。

これがなければ存在意義はない。

『営業・生産』と言うところを『志を持って社会的な活動をする』に置き換え

『志を持って活動する社会活動が動きやすい環境を維持して行くこと。』とすることで

社会貢献との接点が今までの経験の延長線上にあった。

以上